

ゴールデンウィークもあっという間に過ぎてしまいました。皆さん、少しはゆっくりできたでしょうか。特に新しく赴任された先生方や支援員の皆さんにとっては、4月は慣れない環境で大変だったことでしょうか。私も2年前は、中村中学校のスピードについていくのに必死でした。そしてこの4月もやはりスピード感は必須で、皆さんにとっても怒涛の毎日だったのではないのでしょうか。また今日から始まりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

全国学力（標準学力）調査の分析共有を終えて ～次への取組～



各教科で、県版調査で明らかとなった課題の改善状況や今後どのような取組が必要になるかについて協議

全体共有を基に再度、課題を整理

【教科共通の課題】

- ①他の場面でも活用できる意味的理解をともなった知識の習得と定着。
- ②聞いたこと・読んだこと・資料等を根拠に、その内容と関連付けながら自分の考えを表現する。また、その根拠が正しいのか批判的に考えたり、他者の考えを読み取ったりする。
- ③自ら問題を発見し、日常事象と関連付けて、問題解決の見通しをもつ。（探究力を付ける）

教科会で取組を確認できたら、すぐに授業に反映させていきましょう。

協働校事業 中村小学校社会科教材研究会 齊藤一弥先生の指導助言より

今年度第1回目の協働校教材研究会が今週末に行われます。社会科部会で連日遅くまで指導案検討を行っていました。4月20日には、小学校で一足先に教材研究会（社会）が行われ、齊藤先生からご指導・ご助言をいただきました。ここで少しですが、ご紹介させていただきます。各教科に通じる授業改善の視点です。（*解釈や網掛け：松本）

Why ?

なぜ「社会」を学ぶのか。… 授業では子供にとって有益な問題解決の経験を与え、次代を生きる能力を育成する必要がある。つまり、「社会」では民主的な社会人として必要な態度・能力・技術を身に付けさせ、公的資質の育成を目指した授業を行う必要がある。

他教科でも、なぜその教科を学ぶのか話し合っておくといいですね。

What ?

米作り（小学校での内容）を通して何を学ぶのか。… 地理的事実や米の作り方を学ぶのではなく、生産者や消費者、販売者というそれぞれの立場で考える機会をもち関わることで、自分だったらどうするかを考えられるようにし、次代を創れる子供たちにしたい。それには問題解決の質が大切。子供たちに選択や判断の機会を与えていく。

How ?

社会科らしい文脈をいかに描くか。それには問題解決の必然と切実さが大切である。授業では子供たちが社会への関わり方を選択する力を養う。その過程では自分で意思決定させること（自分ならどうするか）が大切。自分たち教員には「正解からの脱却」の意識が必要であり、正解は1つではないことを子供たちに示していく。